

ただいま上程されました議案の御説明を申し上げます前に、一言御挨拶を申し上げます。

議員各位には、先の選挙におきまして、多くの県民から信任を受けられ、めでたく当選の栄誉を得られました。ここに改めまして、深く敬意を表する次第であります。

はじめに、ネパールにおいて発生した大地震についてであります。

去る4月25日、ネパール中部において、マグニチュード7.8の非常に強い地震が発生し、周辺国を含め、多くの方々が犠牲となるなど、甚大な被害が生じました。また、今月にも、再び大規模な地震が発生し、さらに被害が拡大しているところであります。

現在、国際社会による復興支援が続けられておりますが、被害に遭われた方々に心よりお見舞いを申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興を願ってやみません。

さて、我が国の経済は、長期にわたるデフレからの脱却と、持続的な経済成長を掲げた「三本の矢」からなる経済政策等により、企業業績の回復や株価の上昇、雇用情勢の改善傾向などがみられるところではありますが、一方で、個人消費の回復に力強さはみられず、経済の好循環は、地方には十分に広がっているとは言えません。

こうした状況を踏まえ、県では、「本物の出会い 栃木 ふるさと旅行券」の発行など、国の緊急経済対策に呼応した地域の消費喚起対策にスピード感を持って取り組んでいるところであります。また、ジェットロ栃木貿易情報センターの開設など、産業振興の新たな流れも追い風としながら、成長への確かな歩みを、県内各地域、各産業分野に

広く行き渡らせる取組を進めて参ります。

また、県におきましては、計画期間の最終年度を迎えた「新とちぎ元気プラン」の総仕上げに向けて、各種施策の推進に全庁を挙げて取り組むとともに、平成28年度を初年度とする次期プランの策定を進めております。

県議会をはじめ、県民、市町、さらには有識者からいただいた御意見を踏まえながら、先頃、第1次素案として、本県が目指す将来の姿などを取りまとめたところであります。来年2月の策定に向けて、本県の強みを生かす視点に立って、さらに検討を進め、とちぎの未来に希望と誇りを持てる力強いビジョンを描いて参ります。

とりわけ、急速な少子高齢化の進展に的確に対応し、人口減少に歯止めをかけ、将来にわたって活力ある社会を維持していくためには、地域に魅力ある就業の機会を創出し、次代を担う若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえていくとともに、女性や高齢者、障害者など、誰もが意欲と能力に応じ、生き生きと活躍できる環境づくりに取り組んでいかなければなりません。

こうした観点から、次期プランの策定とあわせまして、「まち・ひと・しごと創生」に向けた、本県版の人口ビジョンと地方創生総合戦略を、10月末を目途に策定して参ります。策定に当たりましては、同様に総合戦略を策定する市町と十分な連携を図り、人口減少克服・地方創生の実現に向けた道筋をしっかりと描いて参ります。

さらに、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会につきましては、本県といたしましても、大会の成功に向けて積極的に貢献し

て参りますとともに、大会開催に伴う様々な波及効果を本県の活性化に結び付けられるよう、キャンプ地誘致や観光誘客に加え、文化・教育の振興や国際交流の推進なども視野に入れながら、今後の取組方針を「ビジョン」として秋頃までに取りまとめ、戦略的な取組を展開して参ります。

キャンプ地誘致につきましては、本年8月に中国の北京で開催される世界陸上競技選手権大会に向けて、ハンガリー選手団が県総合運動公園で事前キャンプを行うこととなりました。

県民を代表いたしまして、心から歓迎を申し上げますとともに、今後の展開の弾みとするためにも、ハンガリー選手団が、北京大会において、その実力を十分に発揮できるよう、地元宇都宮市をはじめ、関係団体等と連携を図り、受入れに万全を期して参ります。

結びに、県民の皆様から、県政運営の舵取りを負託されている私の使命を日々しっかりと胸に刻み、引き続き、県民中心・市町村重視を基本姿勢としながら、社会を支え、新しい時代を切り拓く「人づくり」を進め、人も地域も輝き続けるとちぎづくりに全力を注いで参る所存であります。

改めまして、県議会議員各位の御理解と御支援を心からお願い申し上げます。

次に、議案の概要について御説明申し上げます。

今回提出いたしました議案は、第1号議案栃木県監査委員の選任同意についてであります。監査委員のうち県議会議員から選任される委員2名が欠員となっておりますので、阿部寿一氏及び金子裕氏を最も

適任と考え、その選任について同意を求めるものであります。

何とぞ、よろしく御審議の上、議決されますようお願い申し上げます。